

*世界の人口約72億人のうち約3分の一の23億がキリスト教信者だといわれている。そのうちどれほどの割合かははっきりしないが、毎週日曜日に礼拝をささげている。国も、民族も、言葉も、文化も、政治的立場も違う人たちが集まり、三位一体の神を崇めてみことばを聞き、賛美し、祈りをささげている。素晴らしいことだと思う。

*クリスチャンはキリストによって、御霊において一つである。また神の家族である（エペソ2：18）。「**こういうわけで、あなたかたは、もはや他国人でも寄留者でもなく、今は聖徒たちと同じ国民であり、神の家族なのです。**」（2：19）旧約時代は、神の民はイスラエルだけであったが、キリストが来られて新約時代になると、すべての人が神の民にあることができるようになった。神との平和を得た者は人との平和も大切にす。それは平和そのものであるキリストを知っているからである。

*アメリカでは相変わらず白人と黒人の対立があり、人種的少数者に対する有形無形の差別や偏見がある。ヨーロッパその他においても民族の対立はますます激しくなっていることは残念なことである。

森永製菓創業者の森永太郎氏は日本の陶器を売ろうとアメリカに渡ったが当時は人種差別が強く、日本人など相手にしてもらえなかった。しかし、オクラホマのあるクリスチャン老夫婦が太郎を家族のように受け入れてくれた。その老夫婦の人格に触れ、教会へ導かれ、洗礼を受けることになった。異国の地で隔ての壁が取り除かれ、神の家族の一員として取り扱われたのである。社長を退いてからは、天に召されるまで短い期間であったが、一心にイエス・キリストを伝える伝道者として働いた。

*「**あなたかたは使徒と預言者という土台の上に建てられており、キリスト・イエスご自身がその礎石です。この方において、組み合わされた建物の全体が成長し、主にある聖なる宮となるのであり、このキリストにおいて、あなたかたもともに建てられ、御霊によって神の御住まいとなるのです。**」（2：20～22）神の家族の礎石はイエス・キリストであり、その上で成長し、教会を築き上げることができる。「礎石」とは神殿の隅に置かれる、建物全体支える重要な石。教会は決して揺るがない礎の上に建てられるのだが、私たち一人一人は弱くて危なっかしい。先ずは、一人ひとりが自分を礎石に結び付け、お互いを尊重し、弱いところを気遣いながら結び合わせていくのが神の家族の生き方である。神殿がそうであったように教会は神が住まわれるところ、神と神の民が会見するところである。イエス・キリストが臨在し、イエス・キリストと出会うところである。「キリストにおいて」聖なる家族の完成を目指して、励んでいきたい。